

2023 年 3 月吉日

日本癌治療学会会員各位

一般社団法人日本癌治療学会

理事長 土岐 祐一郎

制吐薬適正使用ガイドライン改訂ワーキンググループ

委員長 青儀 健二郎

**メシル酸プロクロルペラジン注射剤終売について
(制吐薬適正使用ガイドライン速報)**

日頃より日本癌治療学会の活動にご理解ご支援を賜り、誠にありがとうございます。

さてこの度、2023 年 2 月 15 日付で、共和薬品工業株式会社より、現在製造販売されているメシル酸プロクロルペラジン注射剤（製品名ノバミン筋注 5mg）が、原薬の確保が困難で、代替原薬もないことから終売になるとの連絡がありました。本注射剤は、術前・術後等の悪心・嘔吐が効能効果として承認されている薬剤です。本邦においては終売となるのは注射剤のみであり、経口剤ノバミン錠 5mg につきましては、原薬が異なるため、製造販売が継続されます。

『制吐薬適正使用ガイドライン 2015 年 10 月【第 2 版】』（書籍）および同一部改訂版 ver.2.2(Web 版)におきましては、制吐作用を持つフェノチアジン系抗精神病薬（ドパミン D₂ 受容体拮抗薬）としてクロルプロマジンとともに注射剤、経口剤として本薬剤が記載されております（下表赤枠部）。

したがって、日本癌治療学会および制吐薬適正使用ガイドライン改訂ワーキンググループといたしましては、今回の事態による臨床現場の混乱を避けるため、1）学会ホームページ、ガイドライン Web 版トップページ、会員向け一斉配信メール等での周知、2）現在作成中の第 3 版(仮称)からの本注射剤に関する記載削除、の 2 点について対応を行います。

制吐薬適正使用ガイドライン改訂ワーキンググループといたしましては代替療法の推奨は行いませんので、各施設におかれましては適切なご対応をお願い申し上げます。

本邦における適切な制吐療法の実施に、今後ともご協力賜りますようよろしくお願い申し上げます。

■書籍版(2015 年 10 月 (第 2 版))記載

表 1 本ガイドラインで取り上げられている制吐薬一覧

分 類	薬剤名	剤形	本邦承認用量	参考 CQ
副腎皮質ステロイド	デキサメタゾン	注射剤	1日 3.3～16.5 mg を 1～2 回に分割して静注, 点滴静注**	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 10, 14, 17
		錠剤	1日 4～20 mg を 1～2 回に分割して経口	
	メチルプレドニゾン*	注射剤	250 mg を 1日 2 回点滴静注	1, 2, 3, 5, 6, 14
5-HT ₃ 受容体拮抗薬	アザセトロン	注射剤	10 mg(塩酸塩として)を 1日 1 回静注***	1, 2, 3, 4, 5, 6, 10, 14, 16, 18
		錠剤	10～15 mg(塩酸塩として)を 1日 1 回経口	
	インジセトロン	錠剤	8 mg(塩酸塩として)を 1日 1 回経口	
		注射剤	4 mg を 1日 1 回緩徐に静注***	
	グラニセトロン	錠剤	4 mg を 1日 1 回経口	
			効果不十分には同用量の注射液を静注	
	グラニセトロン	注射剤	40 μg/kg を 1日 1 回静注, 点滴静注***	
		錠剤	2 mg を 1日 1 回経口	
	パロノセトロン	注射剤	0.75 mg を 1 回静注または点滴静注	
NK ₁ 受容体拮抗薬	アプレピタント	注射剤	0.3 mg(塩酸塩として)を 1日 1 回静注***	2, 3, 4, 5, 8, 14, 16, 17, 18
		錠剤	0.1 mg(塩酸塩として)を 1日 1 回経口	
	ホスアプレピタント	カプセル剤	1日目 125 mg を, 2日目以降は 80 mg を 1日 1 回経口	
ドパミン受容体拮抗薬	ドンペリドン	錠剤	150 mg を 1日 目に 1 回点滴静注	6, 10, 18
		坐剤	10 mg を 1日 3 回食前経口	
	メトクロプラミド	注射剤	60 mg を 1日 2 回直腸内	1, 2, 3, 6, 7, 10, 18
		錠剤	7.67 mg を 1日 1～2 回筋注, 静注	
ベンゾジアゼピン系抗不安薬	アルプラゾラム*	錠剤	1日 7.67～23.04 mg を 2～3 回に分割して食前経口	6, 9
	ロラゼパム*	錠剤	1日 0.4～1.6 mg を 2～3 回に分割して経口	
フェノチアジン系抗精神病薬	プロクロルペラジン*	注射剤	0.5～1.0 mg を治療前夜と当日朝に経口	1, 2, 6, 7, 10, 18
		錠剤	5 mg を 1日 1 回筋注	
	クロルプロマジン*	注射剤	1日 5～20 mg を 1～4 回に分割して経口	
		錠剤	10～50 mg(塩酸塩として)を緩徐に筋注	
ブチロフェノン系抗精神病薬	ハロペリドール*	注射剤	1日 25～75 mg(塩酸塩として)を 2～3 回に分割して経口	1, 6, 18
		錠剤	0.5～2 mg を 4～6 時間ごとに静注	
5-HT ₂ 受容体・ドパミン受容体拮抗薬	リスペリドン*	錠剤	0.5～2 mg を 4～6 時間ごとに経口	18
多受容体作用抗精神病薬 (MARTA)	オランザピン*	錠剤	1.0～1.5 mg を 1日 1 回眠前に経口	2, 3, 6, 18
プロピルアミン系抗ヒスタミン薬	クロルフェニラミン*	注射剤	2.5～10 mg を 1日 1 回経口	18
		散剤	5 mg(マレイン酸塩として)を 1日 3～4 回静注, 皮下注	
			2～6 mg(マレイン酸塩として)を 1日 2～4 回経口	

*わが国では悪心・嘔吐に対して承認されていない。用量は制吐薬として一般的に使用される量を記載した。

**注射薬中の含量はデキサメタゾン 3.3 mg/mL, リン酸デキサメタゾンナトリウム 4 mg/mL である。

***効果不十分には同用量を追加投与可。

■Web 版(2015 年 10 月 (第 2 版) 一部改訂版 (ver.2.2))記載

表 1 本ガイドラインで取り上げられている制吐薬一覧

分 類	薬剤名	剤形	本邦承認用量	参考 CQ
副腎皮質ステロイド	デキサメタゾン	注射剤	1 日 3.3～16.5 mg を 1～2 回に分割して静注, 点滴静注**	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 10, 14, 17
		錠剤	1 日 4～20 mg を 1～2 回に分割して経口	
	メチルプレドニゾロン	注射剤	250 mg を 1 日 2 回点滴静注	1, 2, 3, 5, 6, 14
5-HT ₃ 受容体拮抗薬 (第一世代)	アザセトロン	注射剤	10 mg (塩酸塩として) を 1 日 1 回静注***	1, 2, 3, 4, 5, 6, 10, 14, 16, 18
		錠剤	10～15 mg (塩酸塩として) を 1 日 1 回経口	
	インジセトロン	錠剤	8 mg (塩酸塩として) を 1 日 1 回経口	
	オンダンセトロン	注射剤	4 mg を 1 日 1 回緩徐に静注***	
		錠剤	4 mg を 1 日 1 回経口	
			効果不十分には同用量の注射液を静注	
	グラニセトロン	注射剤	40 μg/kg を 1 日 1 回静注, 点滴静注***	
		錠剤	2 mg を 1 日 1 回経口	
	ラモセトロン	注射剤	0.3 mg (塩酸塩として) を 1 日 1 回静注***	
		錠剤	0.1 mg (塩酸塩として) を 1 日 1 回経口	
(第二世代)	パロノセトロン	注射剤	0.75 mg を 1 回静注または点滴静注	

NK ₁ 受容体拮抗薬	アプレピタント	カプセル剤	1 日目 125 mg を、2 日目以降は 80 mg を 1 日 1 回経口	2, 3, 4, 5, 8, 14, 16, 17, 18
	ホスアプレピタント	注射剤	150 mg を 1 日目に 1 回点滴静注	
ドパミン D ₂ 受容体拮抗薬	ドンペリドン	錠剤	10 mg を 1 日 3 回食前経口	2, 6, 10, 18
		坐剤	60 mg を 1 日 2 回直腸内	
	メトクロプラミド	注射剤	7.67 mg を 1 日 1～2 回筋注, 静注	1, 2, 3, 6, 7, 10, 18
		錠剤	1 日 7.67～23.04 mg を 2～3 回に分割して食前経口	
ベンゾジアゼピン系抗不安薬	アルプラゾラム	錠剤	0.4～0.8 mg を治療前夜と当日朝（治療の 1～2 時間前）に経口	6, 9
	ロラゼパム	錠剤	0.5～1.5 mg を治療前夜と当日朝（治療の 1～2 時間前）に経口	1, 2, 6, 9
フェノチアジン系抗精神病薬（ドパミン D ₂ 受容体拮抗作用）	プロクロルペラジン	注射剤	5 mg を 1 日 1 回筋注	1, 2, 6, 7, 10, 18
		錠剤	1 日 5～20 mg を 1～4 回に分割して経口	
	クロルプロマジン	注射剤	10～50 mg（塩酸塩として）を緩徐に筋注	18
		錠剤	1 日 25～75 mg（塩酸塩として）を 2～3 回に分割して経口	
ブチロフェノン系抗精神病薬（ドパミン D ₂ 受容体拮抗作用）	ハロペリドール	注射剤	0.5～2 mg を 4～6 時間ごとに静注	1, 2, 6, 18
		錠剤	0.5～2 mg を 4～6 時間ごとに経口	

ベンズイソオキサゾール系抗精神病薬 (ドパミン D2 受容体拮抗作用)	リスペリドン	錠剤 液剤	1.0～1.5 mg を 1 日 1 回 眠前に経口	2, 18
多受容体作用抗精神病薬 (ドパミン D2・ ヒスタミン H1・5-HT3・受容体拮抗作用)	オランザピン	錠剤	5～10 mg を 1 日 1 回経口	2, 3, 6, 18
プロピルアミン系抗 ヒスタミン薬	クロルフェニラミン	注射剤	5 mg (マレイン酸塩として) を 1 日 3～4 回静注, 皮下注	18
		散剤	2～6 mg (マレイン酸塩として) を 1 日 2～4 回経口	

わが国では悪心・嘔吐に対して承認されていない薬剤は背景を着色している。なお、用量は制吐薬として一般的に使用される量を記載した。

*注射薬中の含量はデキサメタゾン 3.3 mg/mL, リン酸デキサメタゾンナトリウム 4 mg/mL である。

**効果不十分には同用量を追加投与可。